

暁の祭典 『浜降祭』

日 時：平成23年7月18（月）祝日

浜降祭は毎年、海の日に行われる祭典です。

※明治9年（1876）に、旧暦の6月29日に行われていた「みそぎ」神事を新暦の7月15日と定め、名称を「浜降祭」と呼ばれるようになりました。その後の平成9年（1997）に、祭典を7月20日に変更しましたが、祝日の改正に伴い平成16年からは7月海の日（第3月曜日）に祭典が再度変更となりました。

祭典の進行

- ① 午前4時30分頃 一番輿が祭典会場に入場（7時までに全部の神輿が順次入場）
- ② 7時 浜降祭合同祭開式
- ③ 8時 先駆神社神輿発輿（帰路へ出発）
- ④ 9時 終了 ※神輿が海に入るのは、入場時と祭事終了後の帰路へつく前です

浜降祭とは

今から170年ほど前の天保9年（1838）、寒川神社の神輿が、例年春に行われる国府祭（こうのまち）【大磯町国府本郷】に渡御した帰途、相模川の渡し場で寒川の氏子と地元の氏子が争いを起こし、川に落ちて行方不明になってしまいました。その数日後、南湖の網元である孫七さんが漁の最中にこのご神体を発見し、寒川神社に届けたことを契機に、毎年同神社の神輿が、そのお礼のため南湖の浜に赴き、「禊（みそぎ）」をするようになったと伝えられています。

一方、江戸時代後期に幕府がまとめた『新編相模国風土記稿』（天保3年）によると、鶴嶺八幡宮では、心身の罪やけがれを清める「みそぎ」の神事を行うため、毎年、浜辺への渡御が行われていたとあります。

神輿について

神輿担ぎ

各地の祭礼に出向いては友好と娯楽を兼ねた「神輿愛好会」が青年層を中心となって各地で生まれ、今では盛り上げ役に欠かせませんが、昭和20年（1945）のように出征によって若者が大変少なかった為、60歳までの人々が担いでいたこともあるという。

豆知識 その1

神輿が海に入る「みそぎ」は5時～7時の入場時と式典終了時の8時から。式典が始まると帰ってしまう人がいますが、まとまった神輿が海に入るのを見るには、お発ち（式典後一斉に神輿が動き出す）の後の8時過ぎの方がオススメ！海の状態により、入らない時もあります。見れたあなたはラッキーです。

豆知識 その2

「どっこい、どっこい」という掛け声は、相州神輿独特なもの。掛け声だけではなく、神輿を担ぐ時唄われる歌「茅ヶ崎甚句」が聞けることもあります。

豆知識 その3

神社によって神輿の担ぎ方が違うので、それを見比べるのも面白い。

豆知識 その4

神社を出発する前に暗がりの中で幻想的に行われる「宮出し」も一見の価値あり。

問合せ先

茅ヶ崎海岸浜降祭実行委員会（寒川神社総務課内） Tel：0467-75-0004
茅ヶ崎海岸浜降祭保存会（茅ヶ崎商工会議所） Tel：0467-58-1111

茅ヶ崎海岸 どのこい！湘南 浜降祭

広報ちがさき 7月1日号

日時 7月18日(月) 海の日
 早朝4時30分ごろ～9時ごろ
場所 西浜海岸
 (サザンビーチちがさき西側)



【茅ヶ崎海岸浜降祭保存会 (茅ヶ崎商工会議所内) ☎(58) 1111、産業振興課観光担当】

今年も茅ヶ崎に夏の到来を告げる、暁の祭典「浜降祭」が7月18日(月)、西浜海岸(サザンビーチちがさき西側)で開催されます。夜明けとともに市内と寒川町の各神社から、大小合わせて約40基の神輿が海岸に集まり、神事を行います。今年には東日本大震災の被災者に配慮し、会場での甚句やお囃子などは自粛して開催されます。また、当日の安全確保のため、避難誘導対策や避難ルート確保、警備員の増員などを定めた避難誘導計画を策定しました。

暁の祭典 浜降祭

浜降祭の由来

今から1700年ほど前の天保9(1838)年、国府祭(大磯町国府本郷)に渡御した寒川神社の神輿が、帰途に相模川の渡し場で地元(南)の氏子と争いを起こし、神輿が川に落ちて行方不明になったそうです。その数日後、南湖の網元である孫七が漁の最中にこの御神体を発見し、寒川神社に届けたことを契機に、お礼のため南湖の浜へ赴き、「祝」をするようになったと言ひ伝えられています。

おすすめポイント

8時ごろ
一斉にお発ち
 一斉に神輿が降路に出發します。行きと戻りコースを逆に移動します。一気に三の鳥居に神輿が押し掛けますので、気を付けてください。

7時
浜降祭合同祭開式
 しめ縄が張られた青竹に神社旗。ずらりと並ぶ神輿の数々。厳かな雰囲気の中、神事が執り行われます。普段、あまり機会がない生の雅楽の調べを聴くことができます。

式典会場付近
 神輿が盛んに練り回る活気溢れる光景が広がります。神社ごとに違う担ぎ方や半纏に注目して、見比べてみてください。

※会場内は、神輿が激しく練り回ります。巻き込まれないようご注意ください

屋台
 お祭りといえば屋台。例年、60件くらいの屋台が立ち並びます。

神輿着座位置(式典会場)

三の鳥居付近
 砂地の登り坂を足をとられながらも一気に上り切る、迫力ある神輿と担ぎ手の姿を見ることができます。

4時30分ごろ
一番神輿入場
 暁の中を海岸に向かっていく神輿の列は一見の価値があります。

一の鳥居付近
 海に向かっての下り坂を神輿が縦一列で下ります。神輿の屋根が段々と並ぶ、坂道ならではの光景を見ることができます。

二の鳥居付近
 「どっこい、どっこい」という相州神輿独特の掛け声と共に、次々と神輿が砂浜に入場します。

アクセス Access

JR 茅ヶ崎駅南口から徒歩20分
 ※会場周辺に駐車場・駐輪場はありません。徒歩または臨時バスをご利用ください
有料シャトルバスを約10分間隔で運行
 行き：茅ヶ崎駅南口発 4時55分～7時
 帰り：サザン通り南発 7時30分～8時50分
 ※コミュニティバス「えほし号」中海岸南湖循環市立病院線は、始発から市立病院3時25分発の便まで運休します

交通規制 Traffic

2時～9時は、下図の通り車両通行止めとなります。
 ※国道134号のサザンビーチ交差点から浜見平入口交差点までの間は、片側下り車線を車両通行止めとし、上り車線を双方方向通行とします



神奈川県無形民俗文化財指定 (昭和53年)
 かながわの民俗芸能50選 (昭和57年)
 国土交通省 関東運輸局後援 (平成23年)